

ゆきの灯り

第85号
令和6年2月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

「にしかわ化石館」来館者1000人達成!

地域の宝を語り、集めていきます

1月5日(金)、「にしかわ化石館」は開館以来1000人の来館者を迎えることができました。
記念すべき来館者は、柚木龍雄さん・柚木文恵さんご夫妻(岡山県井原市)で、松岡純夫油木協働支援センターにしかわ分室長より、心ばかりの記念品を贈らせていただきました。

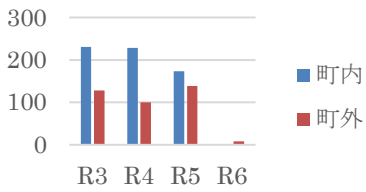
柚木さんご夫妻は、美術館や博物館を巡るのが趣味で近隣各県へもよく足を延ばされており、国道182号線を通った際に「にしかわ化石館」の看板が以前から気になっていたとあって、1月5日の午前中に開館の有無を電話で確認されて来館されました。

お二人とも「化石・鉱石」に興味関心を持たれており、「西川さん個人でよくこれだけ集められましたね。井原市の化石もあり身近に感じます。また、よく整理して展示してあります。」「等、「にしかわ化石館」の展示物へも興味を示していただきました。

令和6年は「辰年」、そして記念すべき来館者が「柚木龍雄」さんご夫妻で、縁起の良いスタートをきる事ができました。



来館者数R3.10～R6.01



「にしかわ化石館」は、神高高原町プレミアムブランド「JINプレミアム」として認定されています。



-今後ともよろしくお願ひします-

油木協働支援センター
にしかわ化石館
化石魅力化プロジェクト

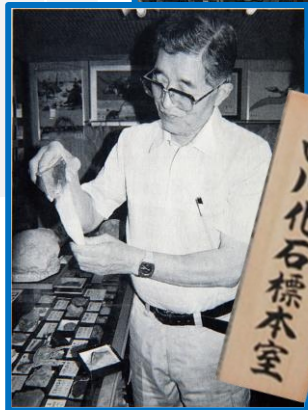
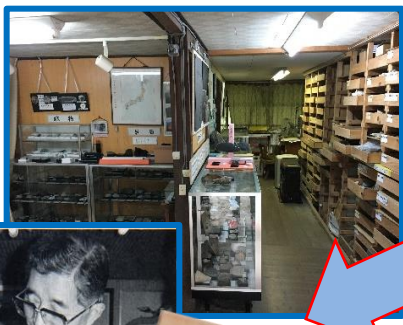
「にしかわ化石館」は、西川功さんの意思を受け継ぐとともに、油木地域の活性化と文化向上に寄与することを目的に、令和3年10月4日に開館しました。

「これは小さな小さな標本室です。標本も小さいし、設備も至って貧弱です。しかし、近くには利用できる地学関係の博物館がありません。地学に興味を持つ人は、どうか遠慮なくこの標本室を利用してください。…趣味で地学の勉強を続けるうち、実物標本の必要を痛感しました…」

(旧西川化石標本室パンフレットより 一部抜粋)

にしかわ化石館 ☎ 81-0309

開館：毎週月・水・金 11:00～19:00



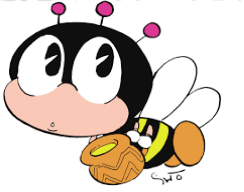
西川化石標本室

「生涯学習」とは、様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。また、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を指すものとして「生涯学習社会」という言葉も用いられます。

西川功氏は、「生涯学習」という言葉がまだ日本で注目される、前から、「化石・鉱石」の研究を通じて「生涯学習」を体現されてきました。改めて、その功績を後世に伝えていくことが「生涯学習社会」の広がりです。

町内には「先人たちのお宝」が数多く遺されています。この「地域の財産」をどう活用できるか、「専門家」の指導・助言・支援が必要だと思います。

生涯学習マスコット：マナビイ



野球をしようぜ!



「大谷翔平選手が全国の小学校へグローブをプレゼント」、ニュースでも話題になっていましたが、油木小学校にもグローブが届き、1月11日(木)には贈呈式を行い全校児童に披露しました。グローブが届いたことを知った児童は、目を輝かせ大歓声でした。休憩時間にはグローブをはめて野球やキャッチボールをしています。

グローブと一緒に「野球をしようぜ」という大谷選手からのメッセージがありました。プレゼントをきっかけに、運動する楽しさを感じる児童がさらに増えると思います。



(油木小学校)

尾道市立御調西小学校で出前講座を実施

化石魅力化プロジェクト

- 学校教育/社会教育のこれからの活動のヒントになれば良いですね -

1月23日(火)、化石魅力化プロジェクトが尾道市立御調西小学校で出前講座を実施し、6年生が「化石クリーニング体験」を通して「地球の歴史」について学習しました。これは、尾道市河内公民館の「学社連携・融合」事業として、学校と地域の連携を図ることを目的に企画されたものです。

今回の出前講座は、公民館主催事業(社会教育)を学校(学校教育)が全面的に協力し、授業の一環として学校を会場として開催されたことに意義があり、御調地域学校運営協議会や御調地区各公民館等からの視察もあり、地域での「学社」のつながりや関心、尾道市生涯学習の先進性も強く感じました。

また、「公民館等活性化モデル事業」の関連で、広島県立生涯学習センターからも視察があり、油木協働支援センター(にしかわ化石館)と河内公民館・御調西小学校との連携を高評価していただきました。

わくわくしながら掘り進め、二枚貝や巻貝の化石を掘り出しました。残念ながら歴史の発見はありませんでしたが、みんな掘り出した化石をお土産にいただきました。御調西小 ニュース(抜粋)



今年も野球をしようぜ!

1月のゆきキッズ

令和6年も子どもたちの元
気な声でスタートしました。

■蒔藪作り教室（1月20日）
赤木健二先生の指導で「蒔
藪」作りに挑戦しました。手
の中で丸く固めて、プリプ
リの丸蒔藪を作ることがで
きました。

■お茶教室⑤（1月27日）
小田緑先生と神石高原町女
性会油木支部の皆さんの指
導で、床に新春の生け花を
飾り付けて「新春の初釜」
をテーマに、盆手前の作法
を学びました。



ミニチュア ティラノサウルス来襲!



「にしかわ化石館」運営に立ち上げか
ら協力いただいている藤井真一さん（油
木出身・福山市在住）から、「にしかわ化
石館」へ恐竜ティラノサウルスのミニチュ
ア骨格模型を寄贈していただきましたま
した。（精巧にできています）
実際のティラノサウルスは、全長約13
m・体重約9tの肉食恐竜だそうです。
「にしかわ化石館」へ来館の際は、
是非、「ご覧ください」。

油木の「元気の出る話」や「地域
の話」等があれば、情報を提供
してください。

（油木協働支援センター）



神石インターナショナルスクール —農業体験活動—

（協力：つたえるネット&東油木自治振興会）



◎お問い合わせ（つたえるネット事務局）
☎：090-75008-0597（赤木）

この農業体験は「NPO法人神石高原つたえる
ネット」を通し、「東油木自治振興会創造工房」の
事業として、「日本の伝統や食文化・自然環境」
の大切さを体感してもらうために1年を通じて
実施したものです。（すべての活動を創造工房ス
タッフが中心となりサポートしました。）

■5月24日（水）田植え体験
1〜3年生16名・教職員3名が参加し、泥
だらけになりながら楽しく活動しました。

■9月23日（土）稲刈り体験
1〜3年生19名・教職員3名が参加し、春
に植えた稲の生長を確かめながら刈り取り
を行いました。

■1月13日（土）餅つき体験
神石インターナショナルスクールへの出前
餅つきを行いました。餅つきは1〜4年生
が体験しましたが、全校生徒と全教職員の
お餅も作りました。とても好評でした。



3.16 開発センターで 逢いまSHOW!!



油木協働支援センター文化イベント部 主催

佐々木リョウ

バリAじゃんライブ
2024

チケット
販売開始
1月9日(火)

3.16(土)
開場 13:30 開演 14:00
油木山村開発センター 多目的ホール
料金(全席自由) 一般 1000円
小学生以下無料
当日限定 500円のグッズ割引有り

お問い合わせ
油木協働支援センター
Tel 0847-82-0701 kagasaki 0112-14-14
E-mail ykyoudou@kagasaki-net.jp

会場案内
油木山村開発センター
〒720-1812 広島県神石郡神石高原町油木乙1857

詳細はHP/11chで
ご確認ください

— 佐々木リョウ —

三次市出身&在住。シンガーソングライター。
マツダスタジアムでの始球式・国歌斉唱、ひろしま
フラワーフェスティバルでのフラワー歌手等の実
績がある。
現在、自身の冠番組RCCラジオ「佐々木リョウの
バリAじゃんラジオ」は今年10年目を邁進中!

RCC「元就」で
紹介されました!
うまいでがんす!

3月15日(金)
13:30

味噌伝

令和6年版

今年も学べる伝統の「味」!

講師(杜氏)
門田 茜 先生
場所 油木コミュニティセンター

- 詳細はHP/11ch でご確認ください -

郡司孝一コーチの Squash Lesson

3月10日(日)10:00~
会場:油木コミュニティセンター
いよいよ本年度最後の
レッスンです!



スカッシュはロサンゼルスオリンピックの
追加競技に決定しました!!

— みんなで子育て — (参考：香川県教育委員会「今こそ家庭教育」)

気持ちにゆとりをもつために

○子どもと「一人で真正面から向き合う」だけでは行き詰
まることもあります。夫婦や祖父母、身近な大人で協力し
合いながら、少し離れて一呼吸おく時間をつくってから、
再び子どもの姿を見つめてみるのもよいでしょう。
○子どもの示す「失敗」の姿は、意外にどの家庭でも共通
している部分が多いもの。子育て仲間に相談すると、「今」
を乗り越えるヒントが見えてくることもあります。

○大人の適切な指導があれば、生活習慣のほとんどは「少
しずつ、いずれできるようになっていく」ものでもありま
す。一生のうちでほんの短い時間である子育てのひと時、
子どもの失敗を気にしながら過ごすばかりではなく、これ
からの姿を楽しみにしながら豊かに過ごしたいですね。

「やってみよう」から始まる子どもの世界

子どもにとっての「できた」は、「やってみよう」の延長線上にはじめて実感されるもの。
その場での「できた/できない」の結果ではなく、子どもの自ら挑戦したい気持ちを理解し、
支えることが、子ども自身を伸ばすことにつながる。



★地域で子どもを見守り育てましょう(油木協働支援センター)



子どもと向き合う 気持ちにゆとりを

- 子育てチェック
- 子どもが失敗すると、つい口すっぱく指摘してしまう。
 - 子どもがうまくできない姿を見ると、つい手を出したくなってしまう。



ワンポイント・アドバイス

- POINT 1 「やってみよう」子どもの気持ちを理解し、その時間を大切にしよう
- POINT 2 目先の「できた/できない」ではなく、ゆとりをもって変えよう
- POINT 3 苦しい時には一呼吸おいて、深呼吸を繰り返すことは、弱さがないことではありません